

伝統文化の授業

テキストの精読、鑑賞を行い、理解を深めるための授業（「古典芸能」「伝統文化論」など）、各芸能の特徴や違いについて考察を深めるための授業（「伝統文化研究」など）、能楽等の芸能を実際に体験するための授業（「伝統文化実習」など）が設けられています。

理解、考察、体験を通して、長い歴史の中で受け継がれてきた文化に触れ、時代を超えて継承されていくものの本質を感じることを目指します。



授業の様子↑↓



相模女子大学 学芸学部 日本語日本文学科

神奈川県相模原市南区文京2-1-1
042-742-1411（代表）
<https://sagami-nichibun.jp>



2025年度
ニチブン
学科の学びシリーズ



伝統文化



授業紹介

「伝統文化論」

室町時代に成立した芸能、能を扱う授業です。能を大成した世阿弥の作品を取り上げ、テキストを精読した後、映像を鑑賞します。「読む」「見る」の両面から、伝統芸能を理解します。

「伝統文化実習Ⅰ」

宝生流能楽師（シテ方）の藪克徳先生による能楽の授業です。白足袋を着用して和室で謡や仕舞を学びます。宝生能楽堂での鑑賞会も実施します。能楽を通じて、日本の伝統美の世界を体験し、古典文化に対する理解を深めるようになることを目指します。



「伝統文化実習Ⅱ」

競技かるたの実践を行う授業です。ルールを理解し、公式戦に出場するまでに必要な作法や技術を身につけます。

競技に用いられる小倉百人一首とその成立背景を学ぶことを通じ、いにしへの歌人たちが発したメッセージに思いを寄せます。さらに、「鑑賞」「発信」を通じ、日本文学の継承者たる自覚を深めていくことを目指します。

佐渡能合宿

本学「夢をかなえるセンター」が主催する地域との協働活動の1つに「佐渡能合宿」があります。地域の能楽団体「羽茂昭諷会」の方に能楽を教わり、佐渡市内の能舞台をお借りしてお稽古をつけていただきます。草刈神社の乙祭の前座で仕舞を披露します。

本学科「伝統文化実習」で能楽に触れた学生の中には、この合宿に参加し、能楽の学びを深めるだけでなく、能楽を通じて、地域の方とのふれ合う経験を得る学生もいます。



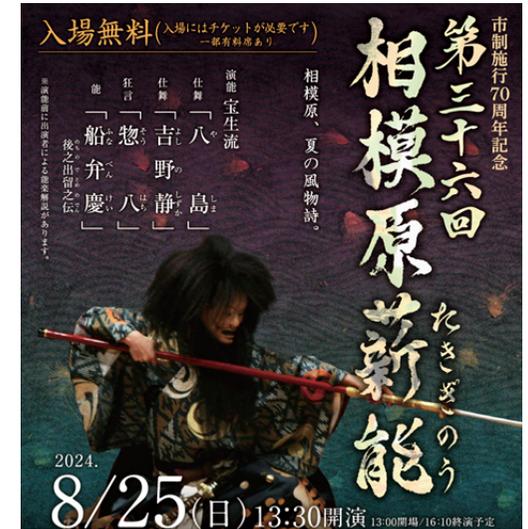
合宿の様子↑↓



相模原薪能

本学、相模原市ならびに公益財団法人相模原市民文化財団との共催で、毎年8月に「相模原薪能」が開催されます。

36回目を迎えた2024年は、宝生会による演能で、本学科の「伝統文化実習」で講師を務める藪克徳先生も出演されました。



受講生の声

私は伝統文化実習の授業で競技かるたと能のどちらも履修しました。かるたは何度か遊ぶことはありましたが競技かるたをするのは初めてで、能に関しては見たことすらないといった状態でした。ですが、どちらも現役で活躍している先生が一から優しく教えてくださって、とても楽しく学べる時間でした。

「伝統文化」や「能」、「競技かるた」と敷居の高さを感じる名前が並びますが、是非思い切って挑戦してみたいと思います。

(2022年度入学生)